

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

網  
工  
物  
畧  
流  
全

70  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
80

経済学部  
研究室  
52  
1585

經濟學部  
研究室

5

1585

細工物畧記

附木工式所立書目考

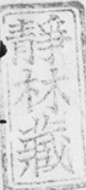


経済

40158

人形毛植之說

此篇凡著淺降目并極々著目と難く是也經驗并隨て次  
第詳略及明而數未詳の事向て死能を以て故并或々著  
淺降目并翻語はものなり其目次既目して左の如し



目次

起源

製造方法

下地

下塗

中塗

上塗

肌肉色

磨

陶眼

髪植

長髪著

木下地

張貫方法

下地

毛植方法

蹄矮狗

人形一年製造費及價

人形製造職上手人名

人形製造職中手人名

毛植製造職人名







# 朱書

卷記長將衣者也帶其帶以結自之刺并作り之之取取著し次并手の取  
 状其善之作り而後首軸列まり羽の上端孔并刺込む



十八枚木羽の下地  
 口ハ頭が刺込む孔  
 六枚肩胛の刺線  
 三三ハ腰腹の刺線

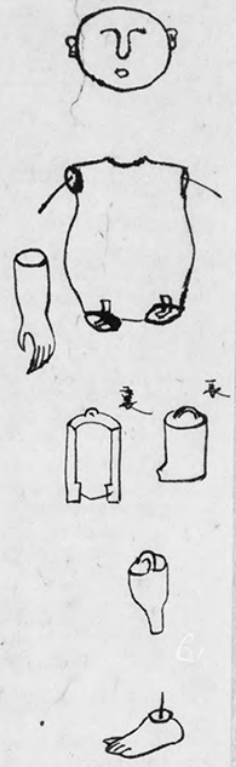
## 木下地

首胸手腰脚尾尻三部并分ち桐木片以て取刺し羽眼塗上之裝植等凡了前法并  
 用下帛の如く中へて頸羽并刺込み肩胛の中より竹釘を以て打敷し又肩胛よ  
 り腕へ鋼線が刺込み革締以て其鋼線が卷七縋細裂以て其裏に包層製  
 端は肩胛と腹と并摺貼り又腹の上鋼線が輪形の如く并刺込み之は腰腹自の取込  
 り、孔中へ刺込み構より竹釘が貫入固著し又脚上鋼線が刺込み腰の取込へ  
 刺込み竹釘が貫入る前并脚へ又足踏へ竹釘が刺込み之は脚上下并刺込み之固  
 著し其刺込む處皆膠を用ひて之を堅貼り



## 張書方法

### 下地



首型が松木片より作り髪倉付油紙塗の稀薄糊を以て着せし美濃紙が張る  
 うり下帛三層下帛五層汗而後大并乾壁布を以て其裏に包層製  
 此等耳の後より墨并紙を二箇并分刺し首型を以て肩眼を以て前法の如く并  
 し又前後二箇紙を合せ紙を以て其合せ目張の桐木片削頭の中へ入水膠  
 貼り此桐木片削頭を以て塗るは髪植等凡了前法并用し

但型を煉人形に型より少くし羽用ハ大凡一尺の人形より少くハ寸の人の型を  
 用しハ羽通直に用

又胸腕腰脚の四部及腰腹小腹の二部共五部并分ち張書紙手豆之を煉木屑紙  
 以て作し其張書紙上へ等若前法并用し又桐木片細く切て肩胛の處へ刺込み





入着了糊と云、其糊年又亦元三升以八掃並其以之摺り既其り所  
 用心  
 生麩糊亦其類乎亦亦其心、今言之其寒暖時用等其用中時并隨之  
 一定可也時之加減せざる所存也

人政一々年製造及價  
 製造買 元九万三千三百八十  
 示 價 元一万零七百九十五半内  
 賣 價 元一万四千三百五十一内

今政製造職上人名  
 津永法立衛 吉坂友兵衛  
 大木 平助 村守善兵衛  
 岡村忠兵衛 川島信七  
 藤松兵衛 岩利莊七  
 川島孫中  
 三咲吉兵衛  
 作中龍次郎  
 吉田孫三七

月十ヶ月人  
 並木善兵衛  
 一井守兵衛  
 堀井善兵衛  
 岩井又兵衛  
 細川源七  
 一井市助  
 松尾居三郎  
 鶴倉多七  
 瀬尾業次郎  
 吉田多七  
 早崎茂兵衛  
 本村喜兵衛  
 三橋久兵衛  
 毛植製造人名

引原与助  
 山中幸助  
 增田富三郎  
 青黄友兵衛  
 西田武助  
 倉橋春吉  
 白谷多助  
 岡村九郎兵衛  
 谷恒莊七  
 並川源次郎  
 福田源助  
 町野常吉  
 寸村信七  
 津田六八  
 西村政七  
 副所其七  
 守三友七  
 田辺守助  
 佐治重助  
 吉田孫七  
 早崎龍次郎  
 本村友七  
 村上政七  
 早崎助治郎



給具の法を解りし事之膠を用ふ其合置は減濃淡なる子煙丹の  
了建則成に注ぐべし

赤色に結きを用ふ

紺色に結きを用ふ

青色に結きを用ふ

赤色に結きを用ふ地獄を落解り膠を減らす事或は丹の光りたる

用ふ

白色に結きを用ふ地獄を落解り膠を減らす事或は丹の光りたる

用ふ

黒色に結きを用ふ地獄を落解り膠を減らす事或は丹の光りたる

知鳥膠より成る漆に塗る其上丹龍目結きを貼る又其上丹漆に

塗る

金具の形を金銀箔を用ふ

右の外種より色を結具に合せし之を成は肌肉色成は丹の胡粉を土

を塗り丹を合はしりたり他色陳法は合はしり準は用す可の結具大

元をりし

- 朱丹 朱土 赤緑漆 紺漆 唐藍 石堂
- 聖母 胡粉 銀丹 灰墨 油煙墨

右に製造法

七條唐敷取

北村助造合

小林治仙

伊勢志遠 下地胡粉塗 宇内 伊手 漆塗

少東親宗

藤山 荘七

右に傳人今並手申 京都久土條康教創り製造法

形より故丹名已在りし。商職人あえ又一々年並買友賣の願

也。云々

奈良人歌

歌制物あり奈良の松壽されぬ... 此の歌は、奈良の松壽寺に由来する。文中には「奈良の松壽寺」とあり、また「奈良の松壽寺」とも記されている。この歌は、奈良の松壽寺の歴史や文化を伝えるものである。

奈良園圃

本和州春日の町人... 此の園圃は、和州春日の町人に由来する。文中には「和州春日の町人」とあり、また「春日の町」とも記されている。この園圃は、春日の町の名産である。

大谷舟下

相傳正有馬郡竹村茶作縁書

相傳正有馬郡湯山... 此の縁書は、相傳正有馬郡湯山に由来する。文中には「相傳正有馬郡湯山」とあり、また「湯山」とも記されている。この縁書は、湯山の歴史や文化を伝えるものである。

相傳正有馬郡湯山... 此の縁書は、相傳正有馬郡湯山に由来する。文中には「相傳正有馬郡湯山」とあり、また「湯山」とも記されている。この縁書は、湯山の歴史や文化を伝えるものである。

此の縁書は、相傳正有馬郡湯山に由来する。文中には「相傳正有馬郡湯山」とあり、また「湯山」とも記されている。この縁書は、湯山の歴史や文化を伝えるものである。



是死動也

第八五

動竹のへ死くを厚さ三分ありて直中分半の處へ入りぬる也次  
第十薄くへ分薄く何本も真中より小力入る也扱薄く成る分隨  
ひ小力入る少くへ死掛け其竹の片ろぬるに盡すかへ片ろぬるの指并取  
左手の指并を習能く押へ次第削行也又極細小片削へく際分薄くへ死其  
竹片用盡す片切りの竹の處に成丈細小片の幅三寸計の掃枝子の四死  
板取台の上置死其上削竹片取て左手の親指并を折へ是死右手  
の指并を捲り削り竹片を髪のかくさ中より削り也是死引死は  
と云行ふなり

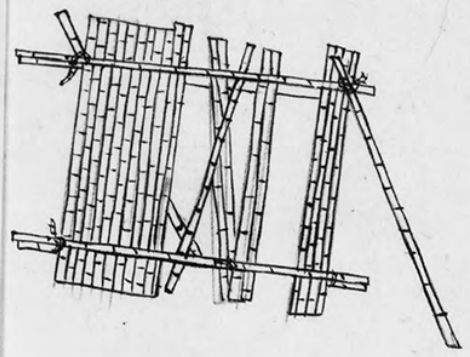
第九五

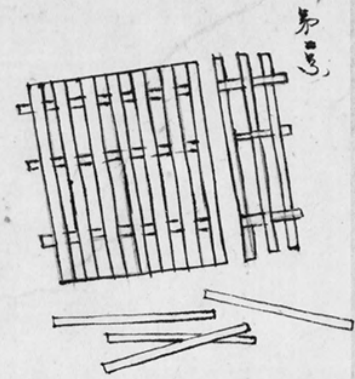
組りの組を捨竹を以て空死並へ或る四半長短を拾へ一舟を折て組并一  
舟を以て三つ組み死自ら其物舟片を仕すなり細代を捨竹片  
以て死日目考自すく透舟並へ横棟并成る指并てあせ組む物なり  
第十五

録竹の撓めちり信を小死火炭并細死花本の丸炭死習より横切り是

火火并起る用ふ其火勢を寸上并て竹片西三并持ぶなりて相の條を  
野并文竹の條り葉よりり并て是死捕けお平條置りては是死  
よ但一尺の角すれぬ九寸三分の處并置死打曲て是死合は角  
く丸死形并差法一尺并成也形大なり是死多分并置死扱へたり  
形小なり物多し久也然れは并置りて寸法大極かへ死なり也  
併仕立上りてはれも扱むるも置むる也

第一五









下山村 米野村 牧野村 平野村 中野島知村  
 右多々産屋

近江西物産

鞭杖製造取調書

栗太郡葦津村

近江栗太郡葦津村名産

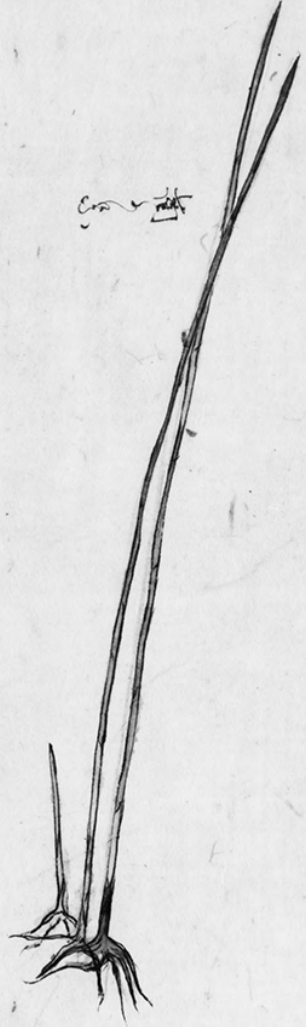
鞭杖 葦津村則今の葦津村也

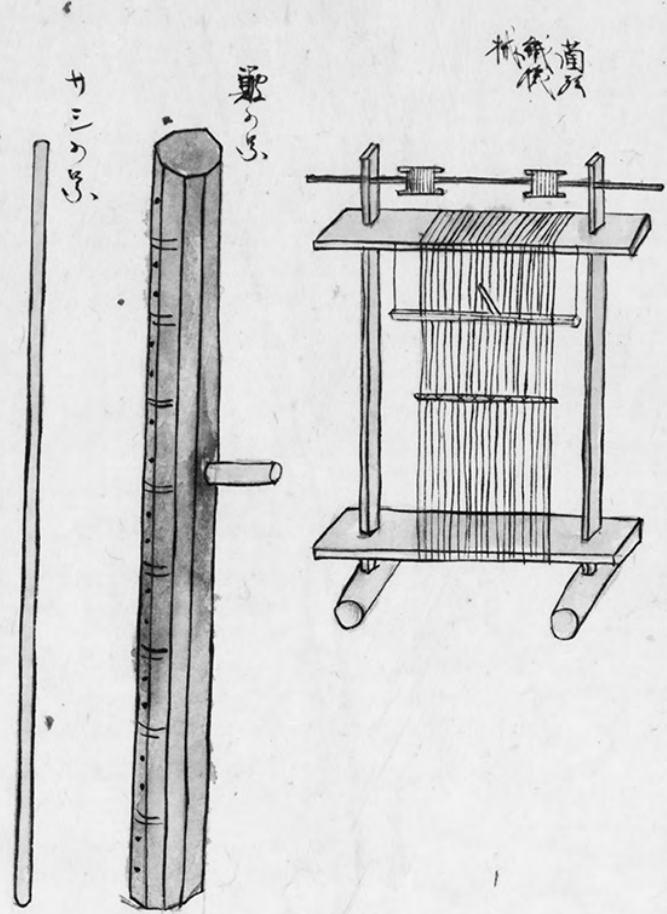
一創業者名時代儀云々神護景雲紀元丁未年五月廿日武雅元植  
 尊位所為求之と解し常陸守鹿島より立出雲丹白鹿丹栗り所を經過  
 り月十百十七日當栗太郡葦津村并着坐し至ふ夏并於て津原流河  
 の從匠に云々里人并同云々む里人葦津村と答ふ暫くは迎并道邊了其  
 鞭杖河迎并持置大和宮三立山并趣之云々了り無之其鞭杖を以て根杖の如  
 里人考異の思所云々此神杖專致云々新處新皇宮為終云々奉云々より  
 其地并發り鞭杖製して商業と云々是則名産の始也其後建久紀  
 元慶元年在舟源賴朝の上野の時名産并より鞭杖獻り公大并悅み其  
 末應永向ふ則神意名所云々公曰武雅元植傳ふ舟源神也と深感當院  
 其鞭杖持來馬所云々行幸途并馬於路ぬ其の鞭り先矢指と向ふ湖面并  
 云々云々云々社林向ふ神云々也里人曰は信彦の鎮座也公曰は信彦  
 舟源家の守神也馬云々の靈神云々云々過云々云々鞭先は信彦と稱は

と云氏并終て世人其類の名産地を知るに孫今耳を達其業紙紙之を  
 焉別  
 聖代の余傳子々千載の不易と云ふ

根鞭出産地之思

尾張国春日井郡小田井村蒲席糸説





小根の節を  
削る



火丹を  
取り  
入  
れ  
て  
削  
る



朱書



萬繩丹之  
唐之也



聯子之也



朱書

黃色瓦  
掃、逆  
日、平、上

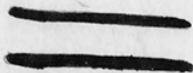
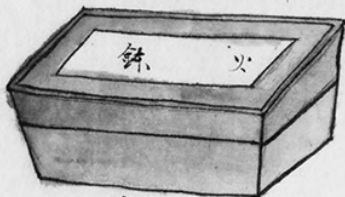
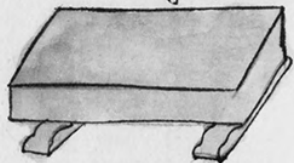
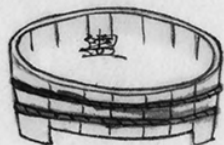
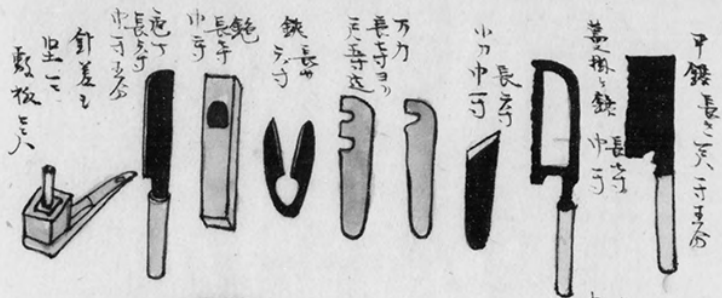
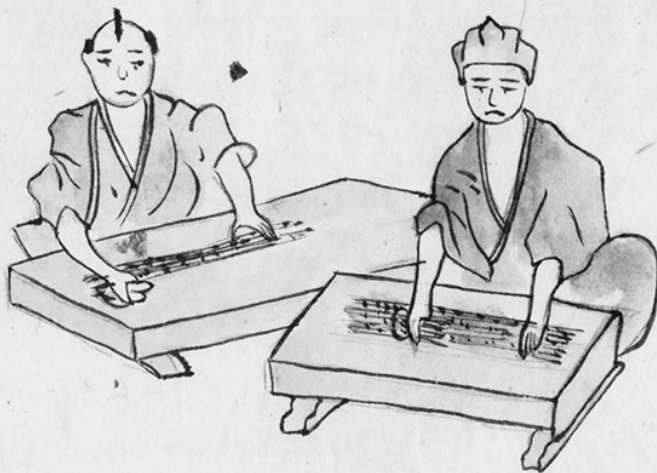


黃色瓦  
掃、逆  
日、平、上



# 朱書

切木高木寸木節切長丹  
 朱書



長六 針

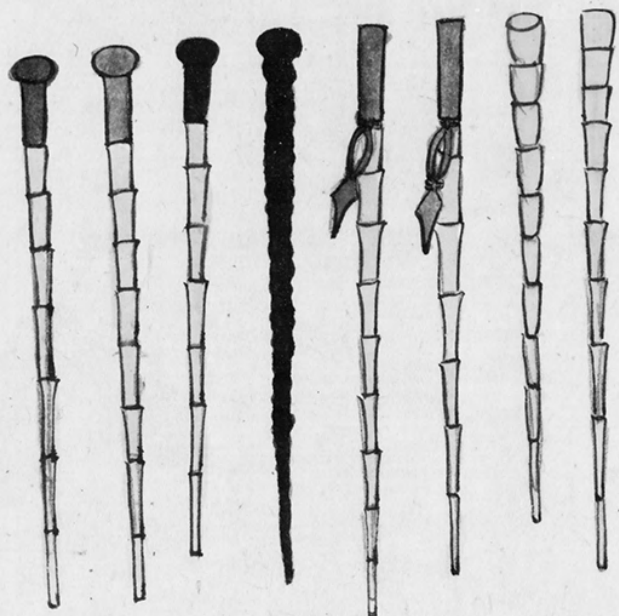
中五寸

長六





5. 2 類 杖



繪  
子  
上  
儀  
若  
釘  
尺  
之  
宗



近江地産物



新母之極片腕  
母貝仁之之之



朱書

本頁部



仕上り



朱書







一拾  
 一貳  
 一三  
 一四  
 一五  
 一六  
 一七  
 一八  
 一九  
 二〇  
 二一  
 二二  
 二三  
 二四  
 二五  
 二六  
 二七  
 二八  
 二九  
 三〇  
 三一  
 三二  
 三三  
 三四  
 三五  
 三六  
 三七  
 三八  
 三九  
 四〇  
 四一  
 四二  
 四三  
 四四  
 四五  
 四六  
 四七  
 四八  
 四九  
 五〇  
 五一  
 五二  
 五三  
 五四  
 五五  
 五六  
 五七  
 五八  
 五九  
 六〇  
 六一  
 六二  
 六三  
 六四  
 六五  
 六六  
 六七  
 六八  
 六九  
 七〇  
 七一  
 七二  
 七三  
 七四  
 七五  
 七六  
 七七  
 七八  
 七九  
 八〇  
 八一  
 八二  
 八三  
 八四  
 八五  
 八六  
 八七  
 八八  
 八九  
 九〇  
 九一  
 九二  
 九三  
 九四  
 九五  
 九六  
 九七  
 九八  
 九九  
 一〇〇

卷了 延  
 小刀 一  
 ハクミ 一  
 徳の重対  
 光博 一  
 タラ 一  
 手桶 一  
 針差 一  
 柳木製 一  
 卷紙入箱 一  
 衣箱 一  
 貳冊  
 魚肝

此全卷一函一分貳一四一四層

栗下郡草津村

蕨南葉

惣代

近重兵衛

以長五十年

五月廿八日

右三通奉書三封二封取返無所存了了依之西六平此其以上

在河内

高平村九在郷

信笑殿  
 侍候



生産物産物 滋賀郡大津村大谷針の細取調査

第一條 滋賀郡大津村大谷針

福井小左衛門

一 正四年に比し創業

従前は糸末に鹿針を用ゆ於南都初而和鉄以制創之時代不存其他の大津に移り傳是

第二條

一 針の製造 其の製造は自今も鹿針の三種

但し綿縫針の名は中やけ中千やけ外千やけ糸縫針の名は箱ぬい箱ぬいの細ぬい

第三條

一 但馬正鉄山之製鉄の針鉄并用ゆ

第四條

一 前箇の製鉄の根津山大坂針鉄工も買求少く鉄條も不存

第五條

一 釘 釘の製造は前箇の製鉄の針鉄の製造に比し第一釘

一 目取

鑪の以て加りて疎角立の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

一 耳打

耳穴の以て加りて耳打の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

一 耳割

鑪の以て加りて耳割の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

一 耳

針の先死に及ぶ針の第一釘は輪弁機弁機弁機弁機

一 狂道

狂道の鑪の以て加りて狂道の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

一 耳割

耳割の鑪の以て加りて耳割の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

一 磨

磨の鑪の以て加りて磨の鑪を生産する鑪の以て加りて直に第一釘

了り第九如也

第六條

一 製針機械一式の製造

第七條

一 製針分課の製造

第八條

一 製針分課の代價の調査

第九條

# 朱書

- 一、正四年の比り 賃金
- 一、慶長十一年より 賃金
- 一、万治三年より 賃金
- 一、慶應元年より 賃金
- 一、天保三年より 賃金

糸格條

福井小左衛門  
中江氏  
他、河津兵衛  
八木佐七  
甘下屋治郎

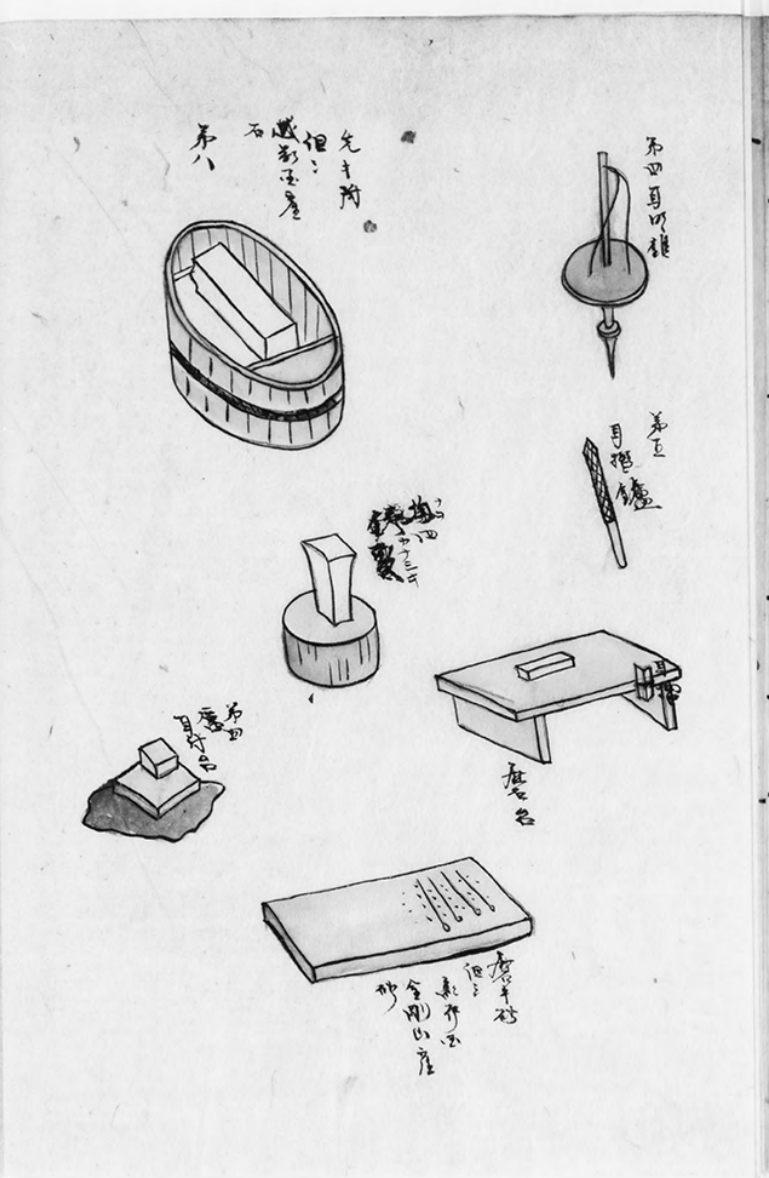
一場所中一十年製数、其賣價、在本五十年異同表別紙

正四年	八月拾日	備付金	一年取	其價
嘉永四年	八月拾日	代七拾文	五百廿四	九十四百七拾五文
享和二年	八月拾日	代七拾文	六百八十八	八百四拾五文
西暦三年	八月拾日	代七拾文	四百廿	八百四拾五文
文久元年	八月拾日	代七拾文	五百貳拾	八百四拾五文
安政二年	八月拾日	代七拾文	四百七十九	八百四拾五文
西暦五年	八月拾日	代七拾文	六百廿	八百四拾五文
天保四年	八月拾日	代七拾文	六百廿	八百四拾五文
享和元年	八月拾日	代七拾文	六百廿	八百四拾五文

## 製針機概及執業各儀之系



# 朱書



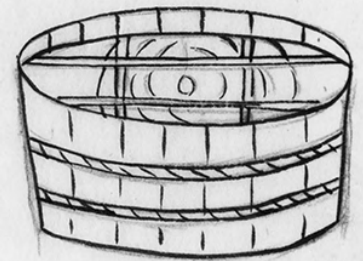
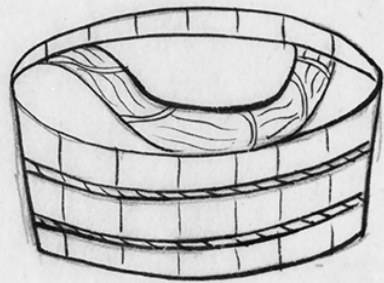




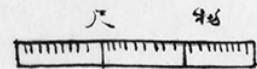
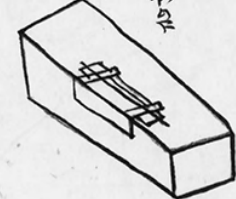
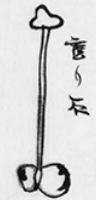
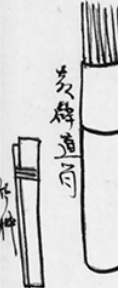
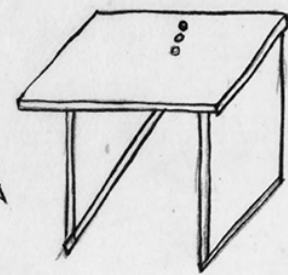
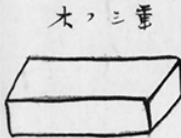




煮物盛桶の具

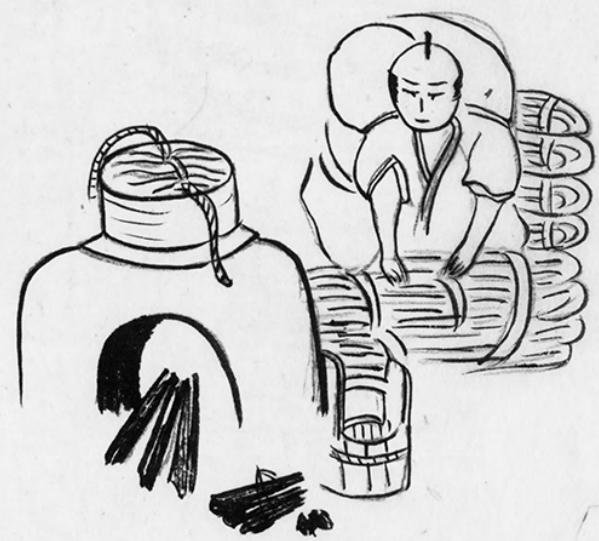


煮物の細道具の具

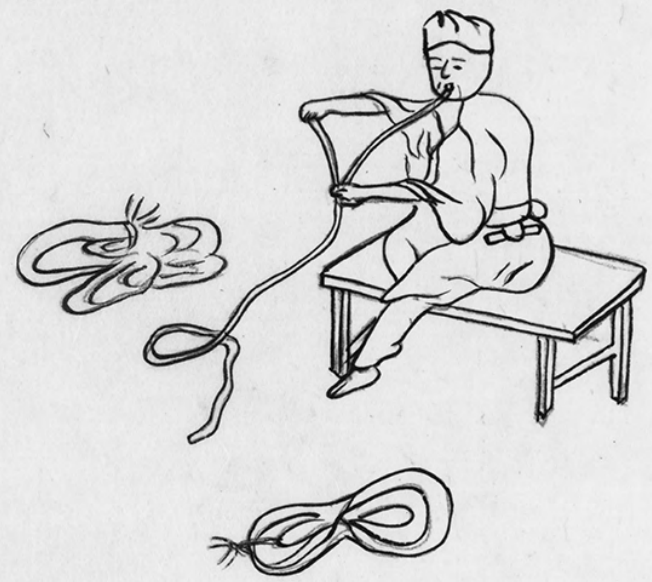




最初  
巻場  
の  
巻



古の巻  
巻場  
の  
巻  
巻  
巻



上高嵩之良、廣新合後  
庚之裏新散多末



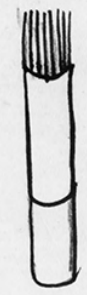
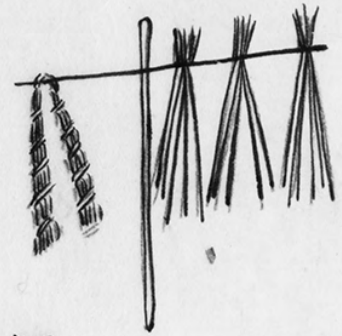
上高寸信新合後  
小切り了



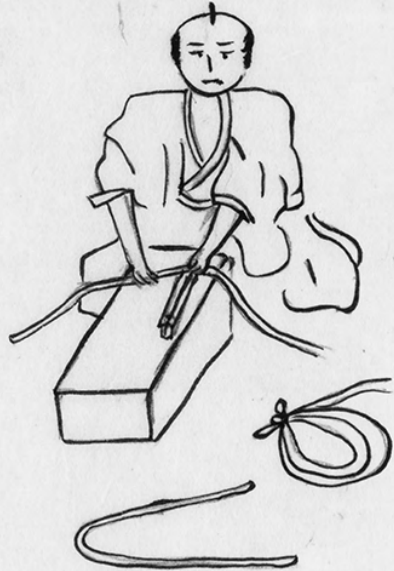
美地製織



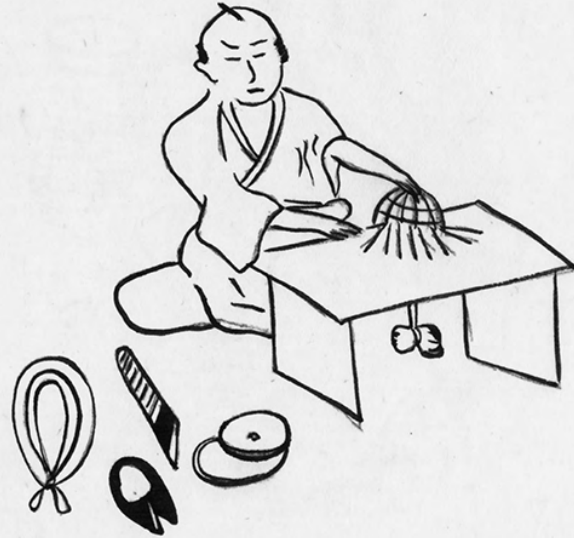
美地製織  
麻石り



直引削糸



糸を引削る





河内通壬申年  
二日

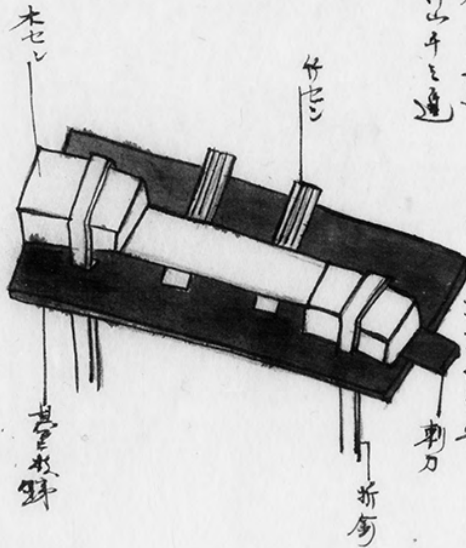
西村 善七  
 少長喜三  
 昭 文平  
 利田 七年  
 太弟 文良乎  
 柚木長三  
 武河 市  
 甲斐郡 好舟  
 年号  
 大形 善子  
 信田 周三  
 弟 運長  
 炎 善丸

中下縣 下長門 中長細 三三 廿九  
 慶永年中 倉督河内 舟信 久春 周 為 以 一 女 組 南 業 三 初 元 祖 中 山 庫 易  
 度 河 内 府 以 人 高 弟 丹 之 兒 藩 舟 被 召 物 其 被 送 進 二 日 舟 行 之 水 長 舟 組  
 三 又 形 丹 泰 組 所 製 作 比 夫 子 連 綿 一 一 當 今 年 已 進 送 七 代 傳 業  
 港 船 組 之 元 廿 三 通 一 一 中 山 年 三 通 一 一 刺 刀 一 一 折 釘

友引

尾 引 以 厚 厚 紙

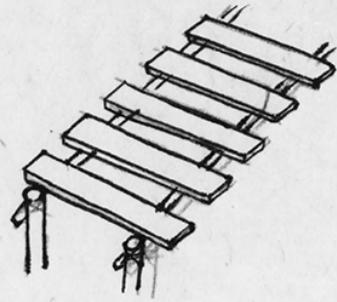
薄 紙



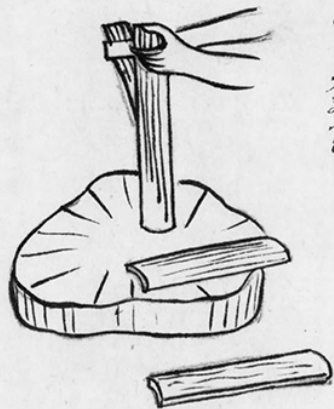




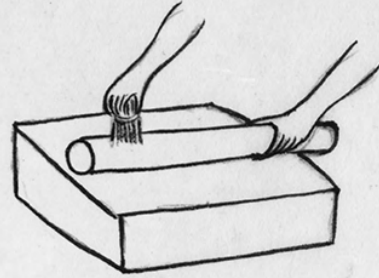




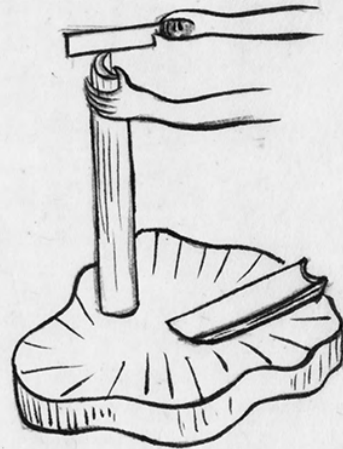
竹の腰刀



竹の身取分け

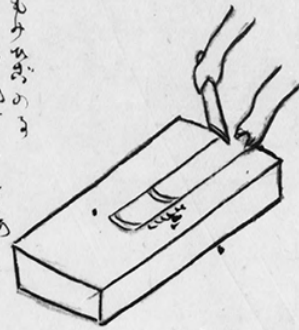


竹の磨き

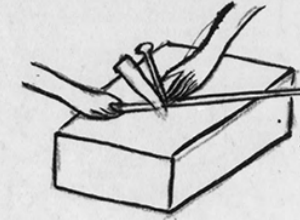


竹の削り

もろぬきの  
竹を合を左若  
やう



竹の節を  
折る

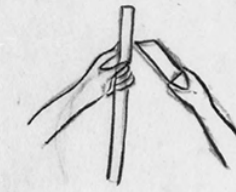


合を  
竹の節を  
折る



竹の  
節を  
折る

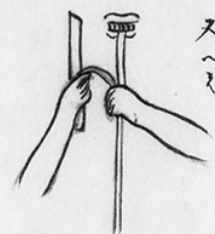
竹の節を  
折る



竹の節を  
折る

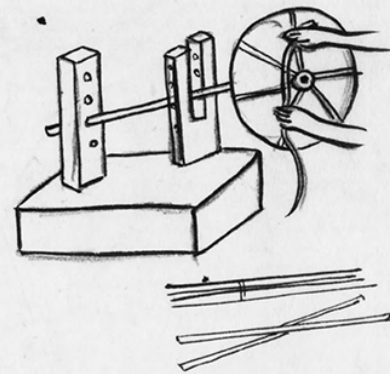
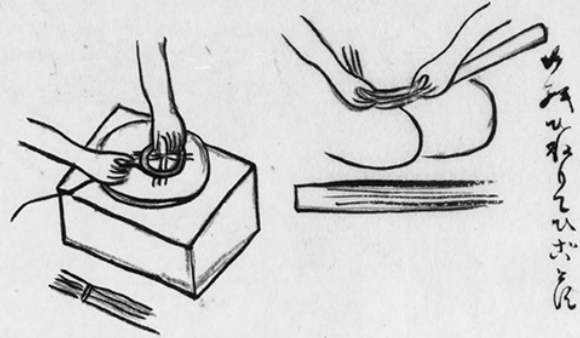
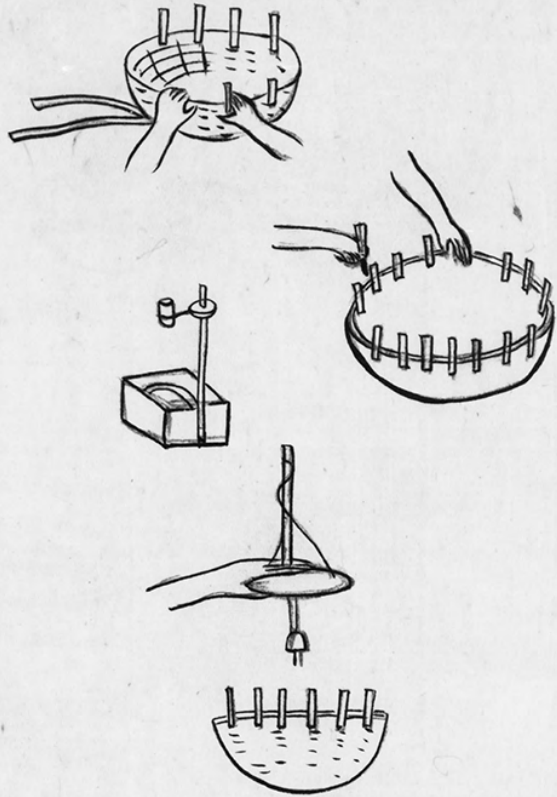


又へ  
竹



竹の節を  
折る











摺り紙の恒り長尺作



全五の表紙上下の紙  
摺り紙の恒り長尺作



夏衣箱の図

其



夏衣箱





釋五火小機風扇價表

五手正引	高層西年	日八戊庚	日十三癸	日知五戊子	安永三癸己	日七戊戌	日三癸酉	日八戊申	慶政三癸丑	日十九午	日三癸亥	文化五戊辰
大價	中價	小價	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八拾文	七拾文	五拾文	九拾文	七拾文	五拾文	九拾文	七拾文	五拾文	九拾文	七拾文	五拾文	九拾文
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日



表全價數各業工數家業												
文化五戊辰年	享和三年	同十戊午年	慶應三年	同八戊申年	同三癸酉年	同七戊戌年	享和三年	同和五年	同十三癸未年	同八戊寅年	同三癸酉年	五年区別
〇	〇	廿五	〇	〇	〇	〇	二拾	拾五	〇	〇	拾	農業区別
〇	〇	三拾五	〇	〇	〇	〇	三拾八	三拾八	〇	〇	拾五	職工
〇	〇	八千五百	〇	八千三百	〇	〇	八千	五千	〇	二千三百	二千	製造數
〇	金八拾五兩	金八拾兩	〇	金三千兩	〇	〇	金五千兩	金三千兩	〇	金拾三兩	金拾三兩	其價

同十癸酉年	文政元年戊辰年	同天癸未年	同十二戊子年	同偶四癸丑年	同偶九戊戌年	同面癸卯年	嘉永元年戊申年	同天癸丑年	同政五年戊午年	同怡元戊辰年	同治四年辛未年
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇



興也利傳録身合付空居新米の由  
魚石玉蒲生郡の帳少編呈河と取潤書

附  
巻紙並執業の給也

編並と伴に細取潤書

第一條

一 創業者名時代りり

在り経営の成り不洋せり事しと東府中を在り二町一屋敷に  
の邊の管仕力時々の職業を相成りり

第二條

一 蘭より編並を製し上迄多敷りり

在り蘭より少の列に授勅申より出りり、米燈心と稱し其成り蘭から  
と稱し、秋は列に編並を製し、是より蘭から米後不台前丹之町半積地  
よりこの場へ傳りり、編並を製し依り成りり、兩より相成りり

第三條

一 編並上中下列合す寸指りり

在り編並の枚九つ列合す寸指りり、上米を八つ列合す寸指りり、下米を  
七つ列合す寸指りり、別無き寸指りり、上米より寸指りり、下米より寸指りり

第四條

一 蘭より編並を製し上迄巻紙一式の給也

在り別冊並酒の給也

第五條

一 蘭より編並を仕上迄三紙業より

在り別冊並酒の給也

第六條

一 市中管業の家影りり

在り當時の影りり、西の影りり

第七條

一 上中下米の給りり、上米は二付其價、下米は全買、白の表五枚給りり、  
別也

在り表の中丹給りり

第九條

一、本年元柳高何穀其價何如今夏白の表五年の己別に  
 本表作すに計す

第九條

一、昔年家数人各り  
 在島職業のりを考へ居り

小和 平太門  
 中河 忠王殿  
 北 利兵衛  
 西用 和兵衛  
 村井 義右門  
 市左門  
 半澤 嘉兵衛  
 櫻村 了兵衛

五年己別	上の一蓋	中の一蓋	下の一蓋	耳蓋	其價
文元辛酉年	六十九	五十九	四十九	八十九	左拾五成
慶長三年	七十九	六十九	五十九	九十九	左拾五成
明徳元年	七十九	七十九	七十九	十二百	左拾五成
				十三百	左拾五成
					左拾五成



錦糸製造の器械

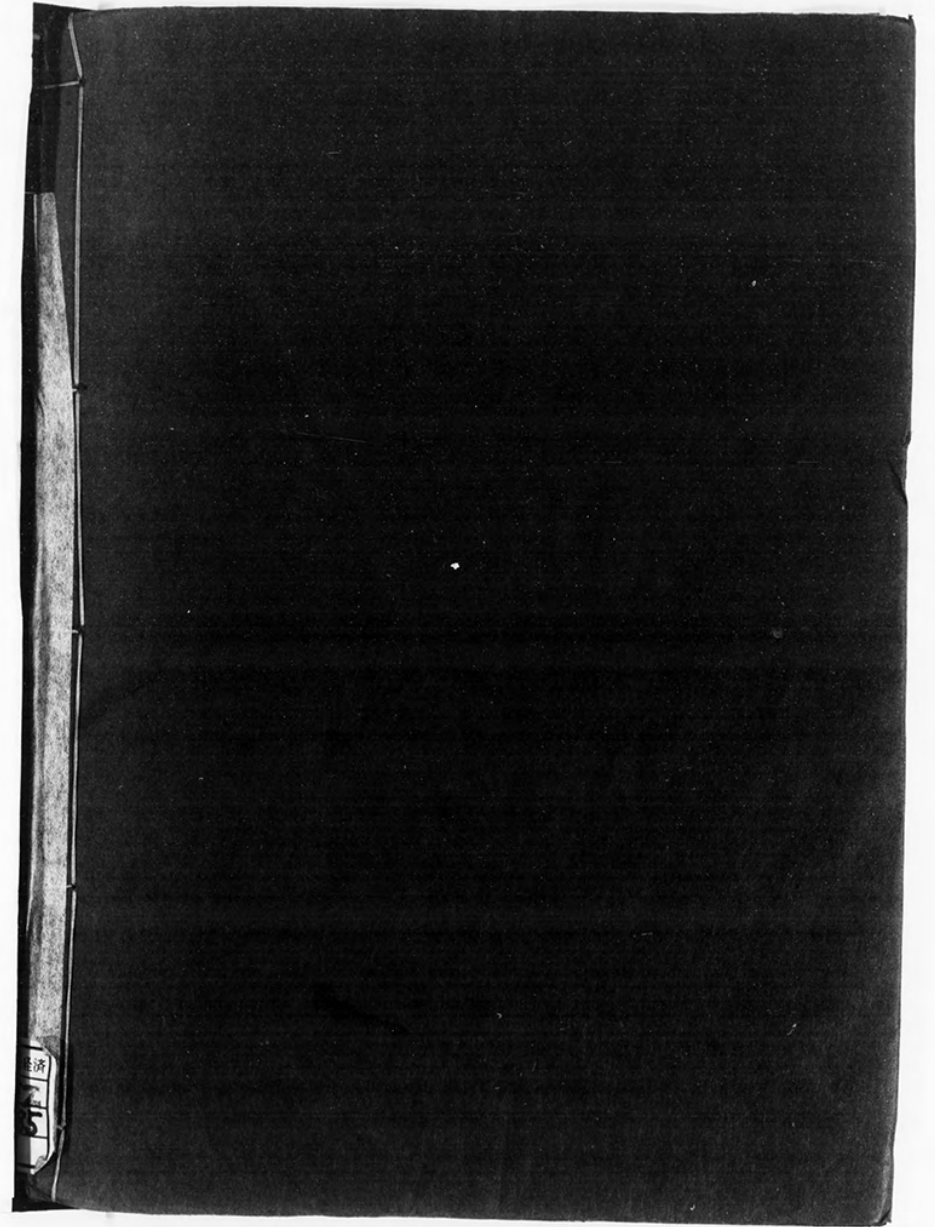


編笠造りの字



155 EDO  
1858

日本書



51

51